

社会福祉援助技術実習指導A			単位数	履修方法(授業形態)	配当学年
			1単位	SR(演習)	2年以上
科目コード	CP3190	担当教員	石附 敬/三浦 剛/山川 敏久/ 佐々木 裕彦/竹之内 章代/佐藤 博彦ほか		

※2009年度以降入学者に対して開設されている科目です。2008年度以前に入学した方、福祉心理学科の方は、履修することはできません。

※スクーリング受講は3年生以上（実習申込が受理された後）。

※レポート提出期限や期間が指定されています（p.154参照）。

※「実習指導A」のスクーリングを欠席された方は、「実習指導B」および「社会福祉援助技術実習」は受講できません。

■科目の内容

社会福祉士として必要な具体的かつ実践的な専門技術等の習得を図ることを目的とします。また、併せて社会福祉援助技術実習の意義について理解をするとともに、児童・高齢者等、実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解をすることを目的とします。

また、次年度の相談援助実習に向けて、実習計画の意義と策定方法を学びます。そして、これまで学修してきた社会福祉学の専門知識を深化させるとともに、各自の援助能力の開発・今後の課題の明確化・自己理解を深める場とし、相談援助専門職としての倫理観を理解する機会とします。

■到達目標

- 1) 実習をおこなう施設・機関等を利用する地域や利用者の実態、生活ニーズ等について具体的データ等を示しながら説明することができる。
- 2) 実習をおこなう施設・機関等の根拠法、機能、業務内容について説明できる。
- 3) 実習をおこなう施設・機関等においておこなわれている関連業務の内容や他職種の役割等について説明できる。
- 4) 「実習計画案」を作成することができる。

■教科書（「実習指導B」「実習」と共通）

- 1) 『社会福祉援助技術実習の手引き（第1分冊）』東北福祉大学（「演習A」時に配付済み）
- 2) 『社会福祉援助技術実習の手引き（第2分冊）』東北福祉大学（「実習指導A」スクーリング受講許可者に配付）
- 3) 『社会福祉援助技術実習 課題ノート』東北福祉大学（「実習指導A」スクーリング受講許可者に配付）
- 4) 白澤政和・中谷陽明・長谷川匡俊・上野谷加代子編『社会福祉士相談援助実習 第2版』中央法規出版、2014年

■履修登録条件

この科目は「演習A」と同時に履修登録をしてください。

※その他、履修の前提科目は『学習の手引き』3章をご参照ください。

■在宅学習 8 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	社会福祉士養成と相談援助実習 相談援助実習の位置づけ (教科書4) 第1部第1章)	「相談援助実習の位置づけ」について、資格制度の見直しやその養成課程を理解する。 キーワード：資格制度、養成課程、教育カリキュラム	社会福祉士に求められる役割と新たな教育カリキュラムについて理解しましょう。また、相談援助実習の基本的枠組み、実習担当教員要件、教育内容等について理解しましょう。
2	相談援助実習ガイドライン 相談援助実習・実習指導ガイドラインの見方 相談援助実習評価表 (第1部第2章第1～2節)	相談援助実習ガイドライン、相談援助実習指導ガイドライン、相談援助実習評価表について理解する。 キーワード：相談援助実習ガイドライン、相談援助実習指導ガイドライン、相談援助実習評価表	相談援助実習ガイドライン、相談援助実習指導ガイドライン、相談援助実習評価表の具体的内容について理解しましょう。
3	ソーシャルワーカーとしての社会福祉士 社会福祉士とソーシャルワーカーの関係 社会福祉士の新たな役割と機能 ソーシャルワークの枠組みをとらえる 社会福祉士の義務 (第1部第3章第1～4節)	ソーシャルワーカーとしての社会福祉士とはどういう意味であるのかを役割や機能、ソーシャルワークの枠組みを通して理解する。 キーワード：ジェネラリスト・ソーシャルワーカー、ソーシャルワーク機能、価値、倫理、知識、技術、義務、ソーシャルワークの枠組み	ソーシャルワーカーとしての社会福祉士とは何か。キーワードを中心に学習し理解しましょう。
4	実習の場と形態 法令上の相談援助実習施設 フィールド・ソーシャルワークとレジデンシャル・ソーシャルワーク実習 第1次分野と第2次分野と相談援助実習の場 さまざまな実習の形態 (第1部第4章第1～4節)	法令上の相談援助実習施設の範囲、フィールド・ソーシャルワーク、レジデンシャル・ソーシャルワークの特徴と分類、そして第1次分野、第2次分野の代表的実習先を理解する。 キーワード：施設の範囲、フィールド・ソーシャルワーク、レジデンシャル・ソーシャルワーク、第1次分野、第2次分野	法令上の相談援助実習施設の範囲を法律ごとにまとめてみましょう。また、フィールド・ソーシャルワークとレジデンシャル・ソーシャルワークの特徴について、そして第1次分野、第2次分野における代表的な実習先について理解しましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
5	契約関係の中にある実習 実習契約関係の理解 実習機関・施設におけるリスク マネジメント 契約書の例 (第1部第5章第1～3節)	実習における契約の意義について、 また、契約内容について理解する。 併せて、プライバシー情報を含む 実習機関におけるリスクマネジメ ントの必要性について理解する。 キーワード：実習契約、リスクマ ネジメント、プライバシー情報	実習における契約書締結の意 義について、「実習委託と指導 関係の構造」から整理してみま しょう。また、実習にかかわる リスクとなどのようなことが考 えられるのかまとめてみましょ う。そして、契約書の具体的な 内容例を教科書から理解しま しょう。
6	実習スーパービジョンの理解 スーパービジョン概論 実習スーパービジョン関係の理 解 実習スーパービジョンの実際 (第1部第6章第1～3節)	スーパービジョン、実習スーパ ービジョンの意義および定義、機能、 効果について、また、スーパ ービジョンの構造とスーパーバイザ ーの権能について理解する。 キーワード：スーパービジョン、 実習スーパービジョン、スーパ ービジョン機能（管理・教育・支 持）、スーパーバイザーの権能	スーパービジョンおよび実習 スーパービジョンの意義および 定義、機能、効果について理 解しましょう。また、スーパ ービジョンの構造とスーパーバイ ザーの権能について、実習教 育における二重のスーパービ ジョンシステムについて理解し ましょう。
7	実習準備・事前学習課題 実習機関・施設、地域の理解 事前学習として実習先を理解す る意義 相談援助実習機関・施設の理解 実習機関・施設のある地域の理 解 (第2部第7章第1～3節)	事前学習の重要性を理解する。ま た、各分野（高齢者、障害者、児 童、社会福祉協議会、医療分野等） の実習機関・施設を理解する。 キーワード：事前学習、実習施設、 地域踏査	事前学習の重要性を理解しま しょう。また、実習機関・施 設について、教科書を参考に 分野ごとに確認しましょう。ま た、地域理解の方法も確認し ましょう。
8	実習機関・施設、地域の利用者 理解と援助方法 実習機関・施設における利用者 の理解 実習機関・施設のある地域にお ける利用者の理解 援助方法の理解 (第2部第8章第1～3節)	実習機関・施設における利用者理 解の方法について、また、実習機 関・施設のある地域における利用 者理解の方法について理解する。 また、施設および地域における援 助の方法について理解する。 キーワード：利用者理解、地域福 祉の推進、個別支援、他の職種と の連携、在宅福祉サービス、小地 域ネットワーク活動、組織化支援、 社会資源開発、地域ケアシステム	実習機関・施設、地域の利 用者理解と援助方法について キーワードを中心にまとめま しょう。

■レポート課題

課題①	「演習 A」受講後に体験学習を実施のうえ『体験学習記録』を提出してください（体験学習免除希望者は、『体験学習記録』の代わりに「実務経験実績報告書」を提出）。 ※すべてペンによる手書き。 ※体験学習→p.135参照。
課題②	『社会福祉援助技術実習 課題ノート』（すべて鉛筆書き）の p.12～33を、あらゆる資料を活用して完成させてください。 ※スクーリング受講日（提出締切日）までに、実習先が決定していない場合は、p.14および p.30 は記載可能な箇所のみで構いません。 ※残りの箇所は、「社会福祉援助技術実習指導 B」での課題となります。 ※『課題ノート』はスクーリング受講許可者に配付します。
課題③	あなたはなぜ「社会福祉援助技術実習」を希望しましたか。また、実習で学びたいことは何ですか。目標や希望を具体的に述べてください。 ※通常のレポート用紙（手書き用・パソコン用どちらでも可）を使用。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■各課題提出期限・提出方法

課題 1：「演習 A」スクーリング受講後、

→『体験学習記録』の場合：実習受講年の 1 / 20 必着

→「実務経験実績報告書」の場合：実習受講前年の 9 / 15 必着

※科目等履修生は『実習の手引き 第 1 分冊』参照。

※郵送または窓口持参。

課題 2：「実習指導 A」スクーリング受講日

※スクーリング会場にて回収しますので、必ず持参してください。忘れた場合や記載内容が不十分な場合（空白箇所がある等）は、スクーリングが不合格となり、次年度の実習受講はできません。

※スクーリング受講日までに実習先が決定しなかった場合は、実習開始前までに完成させ、実習で活用してください。大学への提出は実習後になります（実習指導 B の課題 4）。

課題 3：実習受講前年の 9 / 1～10 / 31 必着

※科目等履修生は『実習の手引き 第 1 分冊』参照。

※郵送または窓口持参。

※教員名は未記入のこと。

■実習指導 A スクーリング受講条件

実習申込受理判定に合格していること。

※受講許可証は、実習申込受理通知に同封します。

■スクーリング申込方法

『With』（7～8月号を予定）巻末の「実習指導 A スクーリング受講申込用紙」を「実習希望届」に同封し、9 / 15 必着でお申込みください。

■スクーリング開講予定

スクーリングは毎年2月頃に行います。ただし、4月生休学明けの方、4月生科目等履修生として実習を行う方は4月上旬になります。

※開講日の詳細は『試験・スクーリング 情報ブック』を参照してください。

※実習受理条件の達成が遅かったり、実習先がなかなか決まらない場合、希望の日程・会場でスクーリング受講ができないことがあります。

■スクーリング講義概要

『試験・スクーリング 情報ブック』をご参照ください。

■単位認定方法

レポート60%＋授業への参加態度20%＋発表20%で評価します。

■参考図書

- ① 早坂聡久・増田公香・福祉臨床シリーズ編集委員会編『相談援助実習・相談援助実習指導—ソーシャルワーク現場実習・ソーシャルワーク実習指導』弘文堂、2009年
- ② 川廷宗之・藤林慶子・高橋流里子著『相談援助実習（MINERVA 社会福祉士養成テキストブック）』ミネルヴァ書房、2009年
- ③ 日本社会福祉士会編『改訂 社会福祉士の倫理—倫理綱領実践ガイドブック』中央法規出版、2009年
- ④ 各社発行の福祉小六法・社会福祉辞典
- ⑤ 東北福祉大学通信教育部『社会福祉援助技術実習の手引き【第2分冊】』中記載の各参考文献

〔事典、辞典、資料〕

- ① 日本地域福祉学会編集『地域福祉事典 新版』中央法規出版、2012年
- ② 中央法規出版編集部『社会福祉用語辞典』中央法規出版、2010年
- ③ 山懸文治・柏女霊峰編集『社会福祉用語辞典 [第9版]』ミネルヴァ書房、2013年
※第8版などでも可
- ④ 社会福祉法規研究会編集『社会福祉六法 平成26年版』新日本法規出版、2013年
- ⑤ 厚生労働統計協会編集『国民の福祉と介護の動向』厚生労働統計協会、各年版
- ⑥ 厚生労働統計協会編集『保険と年金の動向』厚生労働統計協会、各年版

〔実習〕

- ① 澤伊三男編『ソーシャルワーク実践事例集—社会福祉士をめざす人・相談援助に携わる人のために—』明石書店、2009年
- ② 久保、副田編著『ソーシャルワークの実践モデル』川島書店、2006年
- ③ 日本福祉士会編『改訂 社会福祉士の倫理—倫理綱領実践ガイドブック』中央法規、2009年
- ④ 加藤幸雄・小椋喜一郎・他『相談援助実習—ソーシャルワークを学ぶ人のための実習テキスト—』中央法規、2010年
- ⑤ 深谷美枝『ソーシャルワーク実習—より深い学びをめざして—』みらい、2009年
- ⑥ 川廷宗之・高橋流里子・藤林慶子編著『相談援助実習（MINERVA 社会福祉士養成テキスト）』

ブック7)』ミネルヴァ書房、2009年

⑦ 相談援助実習研究会編『はじめての相談援助実習』ミネルヴァ書房、2013年

〔インターネット〕

- ① 厚生労働白書 http://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/
- ② 厚生労働統計一覧（1.人口・世帯 2.保健衛生 3.社会福祉 4.老人保健福祉 5.社会保険
6.社会保障等） <http://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/>
- ③ 福祉・医療・介護関係諸統計リンク集（医療福祉機構） [http://hp.wam.go.jp/useful/link/
tabid/348/Default.aspx](http://hp.wam.go.jp/useful/link/tabid/348/Default.aspx)
- ④ 厚生労働省法令等データベースサービス <http://www.hourei.mhlw.go.jp/hourei/>
- ⑤ WAM NET（医療福祉機構 総合情報サイト） <http://www.wam.go.jp/>
- ⑥ 日本社会福祉士会 <http://www.jacsw.or.jp/>
- ⑦ 社会福祉振興・試験センター <http://www.sssc.or.jp/>
- ⑧ 日本社会福祉士養成校協会 <http://www.jascsw.jp/>

■ 「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「基礎的知識」「応用的知識」「コミュニケーション力」「レポート作成力」「自己管理能力」「協調性・主体性」を身につけてほしい。